



ぜつめつ

絶滅の鳥が生きる島と、外来生物の問題



「オガサワラヒメミスナギドリ」の名前をご存知ですか？
この鳥は、実はまだほとんどの図鑑にのっていません。
なぜなら2011年に米国で新種と認められたばかりだからです。しかも発表と同時に、もう絶滅したかもしれない

ないと報道されました。ミッドウェイ諸島で50年近く前に捕られた古い標本で新種とわかったものの、最近の記録は全くなかったのです。

◆生きていた幻の鳥

さてミッドウェイからはるか4千キロ、東京都小笠原村では、ときどき種類のわからないミスナギドリが見つかっていました。これまで見つかったのは6羽。その形と遺伝子を森林総合研究所などが



調べたところ、2011年に米国で発表された鳥と同じだとわかったのです。絶滅したかもしれない鳥が再発見されたのは、日本では約60年前のアホウドリ以来です。

小笠原諸島がユネスコの世界自然遺産に登録されたのが、これも2011年。この珍しい鳥がここで生きていくのがわかったことは、すてきな祝いだったと言える

でしょう。

◆自然の恵みと外来生物

しかし、この鳥がきわめて少ないことは明らかで、いつ本当に絶滅してしまうかもわかりません。小笠原諸島では元からいた動植物が減り続けており、これはネコやネ



ズミ、また外国産の樹木など人間が持ち込んだ「外来生物」が増えたためと考えられています。外来生物はいろいろな場所で、元からある生態系に問題を起こしています。多様な生き物が暮らす自然は、私たちに食べ物や生活の品々の材料、そして心の豊かさも与えてくれます。その恵みを受けるために、人間はよそから持ち込む生き物を管理する必要があります。